

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193200177		
法人名	社会福祉法人 中川町社会福祉協議会		
事業所名	中川町グループホーム ひだまり		
所在地	北海道中川郡中川町字中川235番地6		
自己評価作成日	令和4年2月11日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中川町は、自然豊かな大地に囲まれ、林業や農業が盛んな町です。福祉の担い手は不足していますが、地域性を生かし、シルバー世代の採用や福祉資格取得へのサポートを実施し、介護福祉士の資格を取得し、働いている方も多数おります。昨今は、高齢化に伴い独居世帯も増加しており、その方々を支える必要なサービスの構築が急務となっております。

当グループホームでは、地域に根ざした運営を心掛け、施設に入居しても地域の方や家族との繋がりが途切れないように支援させていただいています。地域性から入居者同士や、職員と顔なじみの方も多く安心感のある場所を提供する事ができています。知っている方がいるという事は、入居者様にとって大きな心の支えになっている事と思います。「住み慣れたこの地域で、認知症になっても安心して暮らしていく事ができる。」そんな当たり前の事を陰ながらサポートしていく事に今後も力を入れていきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0193200177-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年3月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

上川地方最北部に位置し、山に囲まれ天塩川沿いにある中川町にこのグループホーム「中川町グループホーム ひだまり」があります。人口1400人、こども超高齢化の地域となっています。そんな中で1ユニットの事業所ですが、少数の利用者と職員の関わりを活かし、優しいケアが続けられコロナの影響で地域の行事は、殆ど中止となっていますが家族や知人の訪問には出来る限りの対応で面会出来るようにしています。混乱や戸惑いの中で、今出来る最小限の関わりを検討し続けています。また、管理者による家族訪問や毎月発行される「ひだまり通信」を通して、事業所での生活が変りなく続けられている事を提供しています。中川町社会福祉協議会が運営しているこのグループホームは、他に特別養護老人ホームや訪問介護、通所介護、ショートステイ等々があり、先行きの不安や生活の方向についても一緒に相談し、安心して暮らせるように対応しています。日々研修を重ねる事で研鑽し、職員と一緒に知識の向上やケアの実践に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひだまりは、施設であるが、暮らしている方々にとっては、家であり自宅である事を職員感で共有し理念を掲げ「わが家」であると思っただけのよう日々、ケアに努めています。	開設時より継続して掲げられている理念を基に、新規採用職員や新しく入居される利用者や家族に対して、事業所での暮らしや関わり方を判り易く説明しています。リビングに掲示して皆で共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ一年は、家族との繋がりの維持で精一杯であった。コロナ禍の中でも、地域との交流機会は模索していきたい。	コロナの影響で地域の行事は、殆ど中止となっています。家族や知人の訪問には出来る限りの対応で会えるようにしています。混乱や戸惑いの中で、今出来る最小限の関わりを検討し続けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター等の活動も、滞っており地域に向けた発信は施設内で留まっていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「ひだまり」の様子を発信できるように、会議内では取り組んでいる事や課題等を、理解してもらえるよう心掛けた。会議内での貴重な意見はサービス向上に反映できるよう努めた。	年4回の書面報告の対応、2回の会議開催を行なっています。開催時には多職種の会員や家族の参加があり、現在の不安や状況の把握等話し合わせ情報を知る大切な会議となっています。報告書については全家族に配布されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議での状況報告や、訪問する機会も多く、連携を密に図ることができるよう情報交換等を実施していた。	地域ケア会議は包括支援センターが中心となり、毎月開催されています。管理者が常に参加して情報の把握に努めています。行政の窓口には何時も訪れ、相談や情報交換しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する研修の実施や、不適切なケアの見直しを実施し身体拘束等の事例に結びつく前の対処を心掛けていた。	現在、身体拘束に該当する利用者はいません。年間を通して研修の機会を設定し、身体拘束をしないケアについて研修をしています。グレーゾーンについての認識や日常のケアの中で気が付いた時には、研修時に振り返る機会を設けています。利用者の健康管理や行動確認の為に、職員の素早い対応を心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な虐待防止に関する研修や意見交換を実施し虐待事例が発生する前に防ぐ事に心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当事例もなく、研修等を実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、家族への説明や、不安の解消に努め納得した上で契約する事ができるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族宅への訪問や情報提供を実施し、意見を汲み取る事が出来るように努めている。	コロナの影響で面会の機会が少ない中、管理者は直接家族の自宅を訪問し、生活の様子を伝え要望や意見を聞いています。毎月発行している「ひだまり通信」は、利用者の表情が明るく捉えられコロナの状況でも楽しく生活している姿が家族に届いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に3回の個人面談を継続して実施し、意見を求め運営に生かす事ができるように努めている。	年に数回、個別の面談が行われ直接職員と話が出来るようになってきました。職員不足がこの事業所でもあり、採用後の教育にも力を入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な管理者会議等で代表者との情報交換を実施し就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者で協議を実施し、研修機会の確保や向上を目指しているが、実践には至らなかった。オンライン研修等の計画等を盛り込んでいきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別事業所(内部)への研修等を立案し実践や法人全体での研修は実施する事ができた。外部との交流機会は少なかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や訪問等を実施し、実際に会話や見てもらう事で、不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や訪問等を実施し、家族の不安の軽減や要望の把握に努め良好な関係を築く事ができるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設に入居する事が絶対ではなく、在宅復帰の可能性の模索や維持についても他の関係機関とも協議し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・介護される側との区別なく、尊厳を維持した中でも、和気あいあいとした生活を継続していく事ができるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との繋がりを大事に、施設に任せきりにならないよう、定期的な面会等の協力や連絡を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限りは、コロナ禍でも外出支援や地域の方とのコミュニケーションの維持に努めていた。	今出来る事、利用者の安全と健康を考え日々努めています。交流の少ない中で、少人数対応の利点を活かし、職員と密な関係作りで利用者と共に暮らせるよう心掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の居場所を確保し、リビング等で寛ぐ事ができるような環境調整に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要であれば、連絡の実施や相談を受けている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の会話に耳を傾けたり、相談等に乗る、意向や要望の把握に努め可能な事は、叶える事ができるように努めている。	管理者が自宅を訪問する時に家族の意見を聞き、日々の暮らしの中で気付いた事、カンファレンスで話し合った事、利用者の意見を参考に事業所で生活する本人にとって最良の暮らしを考えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係機関からも情報を提供してもらい、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の状態がわかるように観察や記録に努め変化に早期に気付く事ができるように心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様個人に着目し、その人らしさを失わないようなケアの提供を心掛けている。	管理者が中心となり介護計画書を作成しています。職員の入れ替わりもあり、介護計画と日々の記録の連動にはなかなか繋がっていないようです。管理者は介護計画書の存在と日々の暮らし、ケアの在り方について研修を重ね、職員の理解に繋がるように努めています。	職員の理解と記録の在り方についてさらなる向上に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	画一的な記録にならないよう、入居者個人の一日の様子がわかるよう記載する事を心掛けている。情報共有からの介護計画の見直し等への結びつきは不十分である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康状態や身体機能の変化に合わせて、必要なサービスを提供できるよう、尚且つここで暮らしを継続していく事ができるように検討し対応している。(看取り等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の残されている力を発揮し豊かな暮らしを送る事ができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による隔週での往診を実施してもらい、異常時には通院支援を行っている。	2・3週間に1回の往診と週2回、看護師職員による利用者の健康管理が行われ助言を頂きながら対応しています。歯科の定期受診や必要に応じて眼科の受診を支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師勤務時には、情報交換・共有を密に行い、適切な助言や指示をもらい入居者様の健康管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	診療所との情報交換や、入院時には適切な情報提供を実施し良好な関係を維持する事が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	町内に入院病床が無かった時期もあり、状態の低下や変化時には、家族との終末期に関する情報提供や意思の確認・把握に努めている。	事業所として看取り介護を行っておらず、重度化した場合には主治医、家族、事業所と連携し出来る限りの支援に取り組み、状態によって医療機関、施設等の情報提供を行い利用者にとっての最善に努めています。	重度化した場合についての事業所が利用者、家族に状態による対応を説明した旨の了承を得た事を書面に残すことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応等の研修の実施や対応方法について不安の解消に努め適切な対応・対処を実践できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や災害等の想定訓練を実施し有事の際には、冷静に対応し命を守る行動ができるように努めている。	年2回、消防署立会いのもと昼夜想定で避難訓練を実施しています。あらゆる災害に備え発電機や3～4日分の食糧など備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族のような関係作りを維持しつつも、慣れ合いが生じない様、尊厳を保つ声掛け等を実施している。	利用者を敬う気持ちや上から目線での声掛け、不快にさせない言葉遣いを意識し自尊心を傷つけないように心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が重度の方に対しても、希望や思いを汲み取る事ができるようなケアを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課として、ある程度決められた時間等はあるが、その人やその時の状況に合わせ柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服の選択や整容面等、在宅時と変わらないように化粧品の購入のサポートや身だしなみの維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食等では、実際に調理に携わってもらったりしている。感染予防で、機会は減ってしまっているが、状況を見ながら実施していきたい。	食品業者から調理されたおかずが届き、事業所ではご飯と汁物を調理し提供しています。誕生日や行事食では利用者の好みを聞き、お寿司やジンギスカンなど食事が楽しくなるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の好みや摂取量を把握し、状態観察に努め栄養状態の維持や水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夕には、口腔ケアを実施し口腔状態の維持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時の排泄の声掛けや訴えに合わせた誘導を実施し、例え失敗しても尊厳を失わないよう声掛けに注意している。	日中は出来るだけ自立歩行でトイレでの排泄に努め、羞恥心を感じさせないよう声掛け誘導を心掛けています。夜間のみポータブルトイレを利用されている方がいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤のみに頼らず、水分管理や乳製品の提供等を実施し便秘を予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日等は決まってしまうが、柔軟に対応できるように随時曜日をずらしたり、入浴を増やしたりしている。	利用者の体調を考慮し週2～3回を基本に入浴を支援しています。利用者の好きな入浴剤を使用してリラックスしてゆったりと気持ち良くなるよう行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドで寝るだけでなく、ソファ等でのうたた寝も含め休息できる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後等の情報提供や薬の注意点等を看護師から伝達してもらい観察点等を理解してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内で楽しみを持って生活していく事ができるように支援している。特に季節行事等では、沢山の笑顔が見られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中でも地域の感染状況を見ながら、外出や自宅へ行く等の要望を実施している。冬季間の外出機会は健康面の管理もあり機会は減少していた。	現状では出掛けることが困難な中でも家族の協力のもと買い物や水族館に行ったり、自宅の畑の手入れに行ったりと利用者の要望を叶えられるよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特に制限はしていないが、「使う機会もないし〜。」と、所持している方は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手側からの拒否がない限りは制限は設けておらず、電話の取次ぎや貸出を実施。所持している携帯電話で、家族と連絡している方もおられた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりを感じて頂けるよう配慮した造りになっており、温かみのある雰囲気を感じてくれているのでは。	開放感があるリビングには暖かい日差しが差し込み静謐な時間が流れています。季節を感じる飾りや行事ごとの飾り付けが行われ家庭的な雰囲気を醸し出すことを心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人の居場所を確保し、リビング等で寛ぐ事ができるよう環境調整に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険な物以外の持ち込みに制限はなく、馴染みの物を持ってきていただけるよう声掛けしている。	居室の掃除をしたり、新聞や本を読んだり携帯を持ちこみ家族と連絡を取ったりと今までの習慣を大事に継続できるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を第一に考えるのではなく、本人の自立をサポートできるように対応しその上で、安全面も考慮していく事を日々模索している。		